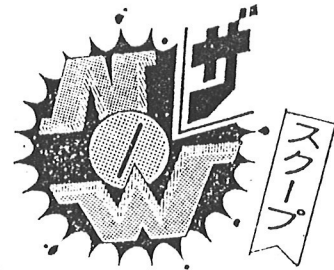
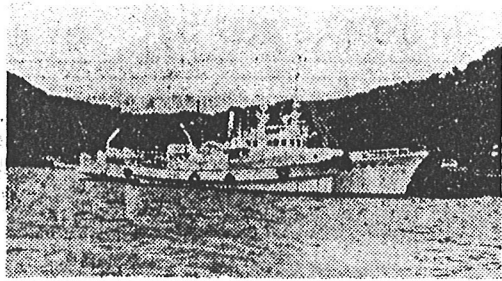


九州と韓国島伝い230時



夢が謀略か
日韓トンネル

(本紙特別取材班)



名護屋港に停泊中の調査船、第一定安丸(後方)

総工費 3~5兆円

統一教会、教祖の提唱で...

九州と韓国、約230時を島伝いにトンネルで結ぼうという夢のような「日韓トンネル」構想が盛められている。国と国をつなぐ国際トンネルは史上初、それに技術的な問題も山積みしている。だが昨夏から佐賀県唐津市でボーリング調査が始まり、調査船による海底音波探査が進行中。世紀の大工事が、それとも壮大な謀略か? 日韓トンネルに移められたナンを追跡してみよう。

冬を迎え白波が激しく砕ける玄界灘。シケがおさまるのを待つのもどくしく調査船「第一定安丸」に関する国際会議が開かれた。(52才)「第三定安丸(160この席上、主催する国際文化財団の文鮮明氏が、世界平和実現のため

冬を迎え白波が激しく砕ける玄界灘。シケがおさまるのを待つのもどくしく調査船「第一定安丸」に関する国際会議が開かれた。(52才)「第三定安丸(160この席上、主催する国際文化財団の文鮮明氏が、世界平和実現のため

青函の約3倍長

調査費だけでも六百億円

名護屋港を出て行く。これらの船は「日韓トンネル」を推し進める民間の任意団体「国際ハイウェイ建設事業団」の調査船である。トンネルを作る前段階の調査として昨秋は、呼子港沖合の加部島で500時をボーリング、そして現在は音波探査器ウォーターガンによる海底深部地層のデータを集めている最中だ。

誰か一体、何のためにトンネルを掘ろうというのか。まず、こうなっているから説明しよう。文鮮明の意を受けて昨四月、日本統一教会員を中心に同事業団が発足、大まかなトンネル計画をまとめた。それによると、佐賀県呼子町から唐津、対馬を経由、韓国・巨済島から釜山に至るというルートで全長230時。途中、つり橋にするかトンネルにするかは今後の調査次第だが呼子一帯版22

佐賀県唐津市で
昨夏からボーリング調査

スポーツ・ニッポン

1983.11.24

No.1

15面

(統一教会) 文鮮明教祖が一九五四年五月一日ソウルで創立。信者は公称、世界128カ国に三百万人、日本に三十万人といわれる。激しい反共運動で知られる国際勝共連合は統一教会の政治的組織。また教会色の強い統一産業など多くの企業と「世界日報」「ニュースワールド」の報道機関をもつ。

基本計画ではメイントンネルは「究会」には青函トンネルの父とも本。ここにリニアモーターカーが言われる佐々保雄北海道大学名誉教授を会長に、松下正寿元立総長が名誉会長に就任。五月、東京で開かれた日韓トンネル研究会設立総会には安井謙司民党最高顧問、有馬元治衆院議員はじめ、日韓議員連盟のメンバー、金山政英元駐韓大使、政財界、学者の多くが集まった。

もし、こうなれば日本人は初めて国境を、陸路で越えるという体験をすることになる。

しかし、誰もが思うだろう。「一体そんなことが可能か、夢物語では」と。現在、日本と韓国の間には関釜フェリーが走り、ジェットも飛ぶ。天文学的な金をかけるほどトンネルは必要なのか。また、そんな長いトンネルを掘る技術はあるのか。

だが、国際ハイウェイプロジェクトの研究機関「日韓トンネル研

※ スポーツニッポン新聞 西部本社
801 北九州門司区清港 1-4-1
TEL 093-321-4001